

専門医資格取得の症例数の経験ほか、希望分野の勉強など幅広いニーズに対応。

国立病院機構本部 医療部 人材育成キャリア支援室長 鷗飼克明

所属病院とは異なる機構病院に一定期間留学し、研鑽を積むための国内留学制度「NHOフェローシップ」。若手医師を対象に、希望に応じた多彩なプログラムが用意されています。今回は、制度のねらいや応募方法について、国立病院機構本部医療部人材育成キャリア支援室の鷗飼克明室長に解説していただきました。

「NHOフェローシップ」のコンセプト

NHOならではの国内留学制度、「NHOフェローシップ」をご存知ですか？

NHOフェローシップとは、「国立病院機構」に所属する若手医師が、専門医の取得や自らのスキルアップを目的として、所属病院とは異なる他の国立病院機構の病院に一定期間留学し、研鑽を積むための制度です。

たとえば、「外科の専門医の資格を取得したいのだけれど、小児外科の症例が足りない」、「産婦人科専門医取得を目指しているのだけれど、胎児治療に興味があって、その拠点病院で研修してみたい」、「神経内科の後期研修中なのだけれど、(自施設ではあまり経験できない) てんかんの脳波の勉強をもっとしてみたい」、「脳外科専門医を目指しているのだけれど、ハイボリュームセンターでたくさん脳血管内治療を経験したい」などなど、このような希望をかなえるための制度です。

所属施設での研修ではちょっと手薄になっている領域を研修したい、もっと「この領域」を極めたい、できれば数ヶ月で(後期研修の期間は限られています)、しかも拠点施設のようなハイボリュームセンターで、こういった希望に応える制度です。もちろん、同じ国立病院機構内での留学ですので、身分は保障されたままです。

機構病院の若手医師ならだれでも応募可能

さて、この制度には以下に示すようないくつかの条件があります。

1つは、この制度を利用できるのは国立病院機構に所属する若手医師であることです。常勤、期間職員、非常勤は問いません。なお、ここで言う「若手」とは医師免許取得後、おおむね10年以内であることですが、厳格な定義ではありません。それと、もちろんですが、研修担当責任者や所属病院の院長先生の了解が必要になります。

もう1つの条件は、受け入れ先(留学先)は国立病院機構の病院であることです。受け入れ可能な現時点での登録施設とプログラム一覧は、国立病院機構本部のホームページ内の、教育研修事業>NHOフェローシップ最新情報>「NHOフェローシップ」登録施設・プログラム一覧にアップされています。どうぞご覧になってください。

なお、ここにアップされていない施設やプログラムでの研修を希望される場合には、所属病院の研修担当責任者や本部医療課のフェローシップ担当に直接ご連絡・ご相談ください。余程の無理難題でない限り、希望に応えるように努力します。

留学の期間ですが、原則として半年以内に限られます。専門医取得のための症例経験が目的の場合には、2～3ヶ月間の留学も可能です。留学の期

間に関しては、所属施設の研修担当責任者と、留学先の指導責任者と事前に相談してください。

所属病院に了解を得て応募しよう

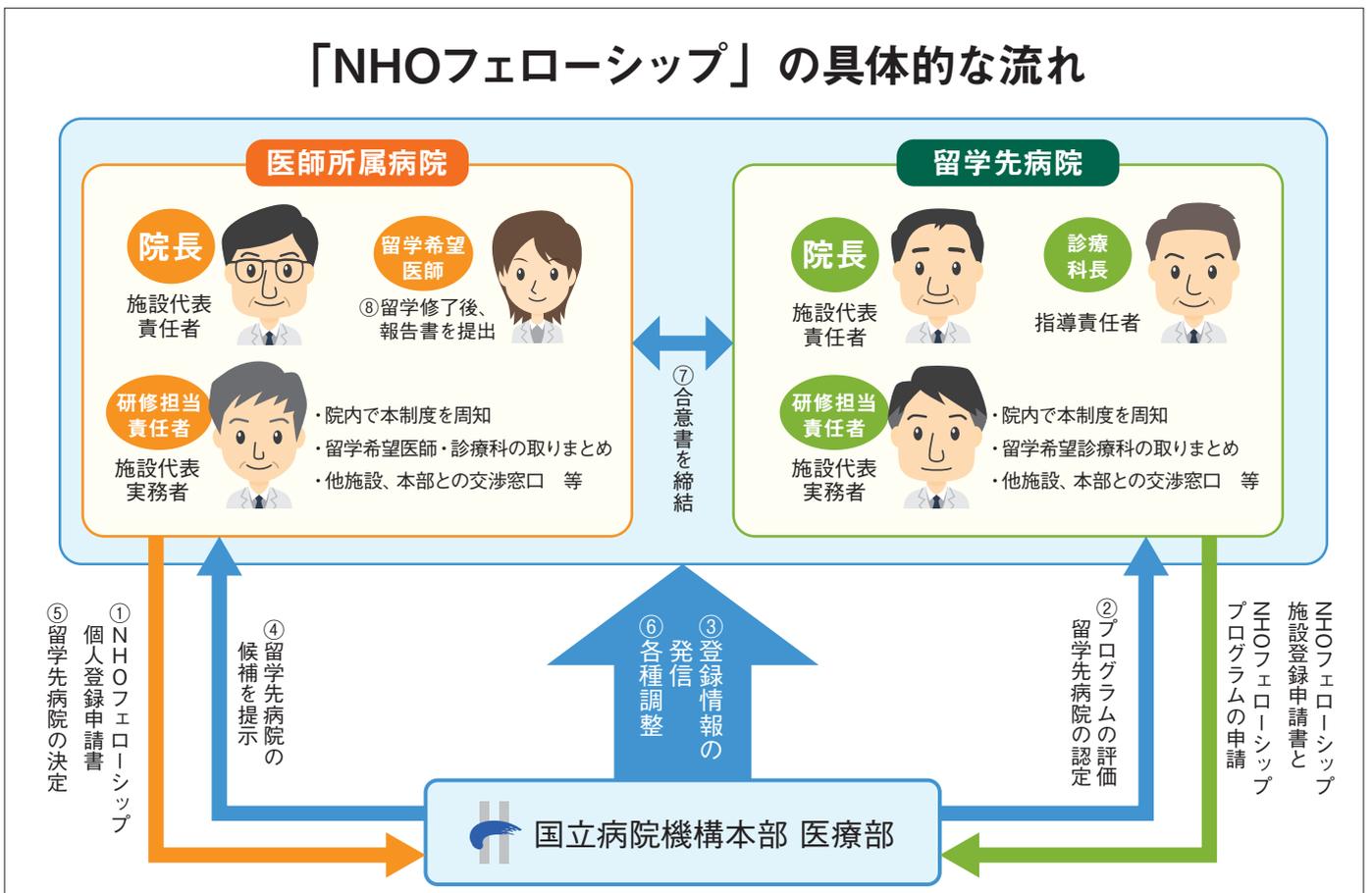
さて、手続きです。

この制度を利用したいと思ったら、まずは所属病院の指導医や研修担当責任者に相談してください。どんな目的でどんな研修(留学)がしたいのかを、所属病院の研修担当責任者と院長にしっかりと説明し、了解を得てください。これが第一歩です。もちろんですが、あなたの施設にも事情があります。

所属病院の了解が得られれば、どこの施設の、どのプログラムが望ましいのかを研修担当責任者と一緒に考えてください。そのうえで、研修担当責任者が本部医療部に「個人登録申請書」を申請することとなります。所属病院、本部、そして留学希望先病院の間で、研修開始の時期や研修期間など様々な調整をして、最終的に決定します。なお、その間に研修中の処遇(宿舍も含めて)などの相談も行います。

この制度に興味のある方は、所属施設の研修担当責任者、あるいは本部医療部にどうぞご相談ください。国立病院機構は、若手医師のスキルアップを応援します！

「NHOフェローシップ」の具体的な流れ



経験者の声【小児科アレルギー研修プログラム】

NHOフェローシップに応募し、相模原病院で半年間の「小児科アレルギー研修プログラム」を経験。その後、このジャンルをより深く学びたいという希望で、相模原病院の小児科に異動された高橋亮平先生にお話をうかがいました。



相模原病院 小児科
高橋亮平

DATA

留学先病院：相模原病院
留学期間：2013年12月2日～2014年6月1日
留学期間：6ヶ月間

- 留学先病院における学術的活動の実績
 - ・留学期間中における学会や研究会への参加…1回
 - ・留学施設で経験した症例に関する学会発表…1回
 - ・第51回日本小児アレルギー学会
 - ・加熱全卵負荷試験の結果と卵白・オボムコイド特異的IgEの有用性
 - ・留学施設で経験した症例に関する論文作成…1編

NHOフェローシップ 小児科アレルギー研修プログラム

■ 概要

一般小児疾患の診療をベースに、食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎などの小児アレルギー疾患集中的に学ぶ。

■ 内容

小児アレルギーの診断に必要な基礎知識、検査法、疾患や重症度に応じた治療法の基本を修得。肺機能検査・食物経口負荷試験・アレルギー免疫療法などの意義と方法、解釈を学ぶ。また、小児診療における問題点を発見、解決する能力を身につけ、学会発表、論文発表などにもつなげる。

■ 期間と募集人数

6ヶ月間、1名

■ 取得手技

小児アレルギー疾患における各疾患の診断基準を理解し、的確な診断および重症度に応じた患者指導を修得。また、アレルギー疾患の初診診療や肺機能検査・食物経口負荷試験の方法に関してもある程度修得する。

■ 診療科の指導体制

診療科医師数：常勤7名
診療科研修の指導にあたる医師数：7名

■ 診療科の入院実績

食物アレルギー：1000件
アトピー性皮膚炎：50件
気管支喘息：50件
食物に対する経口免疫療法：50件
環境抗原に対する急速免疫療法：20件
※件数は年間入院数を示す

■ 共通領域研修

臨床カンファレンス（週1回）
アレルギー初診カンファレンス（週1回）
研究カンファレンス（週1回）
抄読会（週1回）
臨床研究センター（抄読会・検討会：それぞれ月1回）

食物アレルギーの患者を長期にフォローアップ。 臨床研究ができる環境にも満足しています。

—NHO フェローシップの感想は？

小児アレルギーに興味があり、3年前、こちらで研修を受けました。同級生を見ていると、新しい研修先を探すのに多くの病院をまわったり、院長面接を受けたり、医局の中の調整が必要だったりと苦労しています。しかし、NHOフェローシップのプログラムを利用したので、見学時に即面接で、あとは日程を調整するぐらいで、とても簡単でした。機構病院同士ということで、気軽というか、手続きなどの敷居が低いのがいいですね。

僕は小児アレルギーを選択しましたが、多彩なプログラムがあり、しかも研修先はそのジャンルをメインでやっている病院です。専門的な内容が集中的に学べる点もメリットだと思います。

—相模原病院に戻られた理由は？

研修後、いったん所属の岡山医療センターに戻りました。半年間でも十分勉強になり、満足だったのですが、食物アレルギーは6ヶ月で治る病気ではありません。自分が最初に診た患者さんを卒業まで診れないのが非常に残念だったんです。

それと、アレルギーに特化した環境ではないので、専門的に取り組むのはなかなか難しい面がありました。たとえば、当院では食物アレルギーの診断に必要な食物経口負荷試験が1日8～12人と枠を決めて、毎日定期的に行われています。検査体制が整っているため、診療もスムーズに進んでいくんですね。患者さんを卒業まで見守り、長期的にフォローアップしていきたいと考えて、こちらに戻ってくることにしました。

指導医の声

国立病院機構ならではの有意義な研修システム。 興味あるジャンルにどんどんトライしてほしい。



相模原病院 小児科医長
柳田紀之

高橋先生はNHOフェローシップを利用して当院で半年間研修されました。現在は、再度当院に戻ってきてくれて、さらにアレルギーの経験と知識を身につけ、臨床だけでなく研究面でも積極的に研究計画を立案し、論文を作成するなど、どんどん成長する姿を頼もしく感じています。

当院はアレルギーを特に専門とする病院であり、質の高い診療を行なうように努力し、患者さんに還元できるデータを蓄積し、世界にエビデンスを発信しています。これと同時に、研修医師を積極的に受け入れ、教育に力を入れています。研修期間にかかわらず、当院での研修の満足度は高く、研修後も、当院で研修した医師が地域に帰られたあとの支援を続けています。アレルギー対策基本法で、当院と成育医療研究センターはアレルギー関連の研究や医療従事者の育成を行なう病院として法律で定められました。今後も、このアレルギー分野に興味のある若手医師をサポートしていきたいと思っています。

国立病院機構には希望に応じて多彩な研修ができるシステムが整っています。ある程度の専門科でのベースができたなら、自分の興味がある分野で専門性（サブスペシャリティ）を磨く研修にチャレンジしてほしいと思っています。

所属病院とは違う症例や治療を経験。 国内留学制度「NHOフェローシップ」。



旭川医療センター 呼吸器内科
鈴木北斗

子どもの頃の夢

パイロット



国立病院機構では全国143病院のネットワークを活かし、研修医・専修医の方々のスキルアップを応援する「NHOフェローシップ」を用意しています。知識と経験が効率良く身につく、所属する病院で体験できない症例や治療法に触れ、実践的な診療がマスターできる点も魅力です。今回は東名古屋病院の呼吸器内科で研修された鈴木北斗先生にお話をうかがいました。

専修医の声

NTMに関する豊富な症例と実績が魅力。 結核も多彩な症例が体験でき、満足しています。

——応募したきっかけは？

初期研修からずっと旭川医療センターにいましたので、そろそろ他の病院での診療を経験してみたいと思っていました。指導医に相談したところ、NHOフェローシップの制度を教えられ、こちらの呼吸器内科にお世話になることができました。

僕は幼い頃、結核の予防接種を受けた経験があり、発病こそしなかったものの、喀痰検査などもやってきました。他にもぜんそくになったり、医師になる前から呼吸器内科には縁がありました。循環器や麻酔科にも興味があったんですが、最終的に選んだのは、この領域が好きだったからです。

——今回の研修で今後、役立ちそうな点は？

結核と非結核性抗酸菌症（NTM）の治療法を知りたい、呼吸器内科医としてスキルアップしたいというのが今回の目的でした。予想通り症例が豊富で、先生方の治療を電子カルテで拝見する

だけでも勉強になるので、来てよかったと手応えを感じています。NTMは使える薬が少ないですが、こちらでは臨床研究の成果が蓄積されていて、情報をたくさんお持ちですので、薬の選択の仕方、セカンドラインの薬をどうするべきかについて、すぐアドバイスがいただけるため、とても参考になります。

同じ呼吸器内科といっても、旭川医療センターでは肺がんやCOPDの患者さんが多いのに比べ、こちらでは感染症関連の方が大半です。結核に関しても旭川では患者数が少ないですが、こちらでは肺結核以外や多剤耐性結核の症例も多く扱っていらっしゃるの今回経験は今後、役立つと思います。

呼吸器内科の医師でも結核を診たことがない人は少なくないと思います。ここでは結核とそれ以外の抗酸菌症も含めてまんべんなく、それもかなりの症例が診られます。僕自身、来たばかりでも多くの症例を持たせていただいているので、3ヶ月の間に十分勉強できると思っています。若い時の経験はずっと残ると思うので、この経験を患者さんに還元していきたいですね。

——将来の目標を教えてください。

僕は静岡出身ですが、大学から旭川に行っており今はこうして名古屋で研修しています。今後はおそらく北海道をベースに働いていきたいと思います。

呼吸器内科の特徴である気管支鏡が結構好きなので、インターベンションなどのいろいろな手技を覚えて、持ち帰って応用できたらと思っています。

それ以外では、もともとNPPVなどの呼吸管理に興味があり、その勉強もしてきました。今後はそれを活かしながら、プラスアルファでICU管理や救命救急などにも関わりたいと考えています。

今回はNTMや結核など、旭川ではあまり多くない症例を診られたので、今後は他の病気やまだ修得していない手技などを別の研修で身につけられればと考えています。

NHOフェローシップで発表されている呼吸器内科の研修はそれほど多くありませんが、本部の方に相談して希望を伝え、受け入れ先とマッチングできれば、オーダーメイド的に新しいプログラムをつくっていただくことも可能であろうかと思いました。モチベーションに応じて、興味ある分野の研修が受けられるのは魅力です。機会があればぜひお願いしたいと思います。

NHOフェローシップ

呼吸器感染症（抗酸菌症・真菌症）および慢性呼吸不全管理修得プログラム

■ 概要

呼吸器内科にて、肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症などの感染症および慢性呼吸不全（COPD・間質性肺炎・肺結核後遺症）などの症例を経験する。

■ 内容

肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症の診断および標準治療の修得、および慢性呼吸不全のハビリテーション・酸素管理・人工呼吸管理（特にNPPV）を修得。非結核性抗酸菌症に関しては、治療開始時期・治療期間・治療薬・外科治療適応を十分に学び、実践できるようにする。

肺抗酸菌症・肺真菌症のエキスパートとして指導的役割を果たせる呼吸器内科医を目指す。時間的余裕があれば、地方学会での症例報告や総会での症例解析報告なども実施。さらに抗酸菌症指導医を目指す場合は、遺伝子解析方法も学ぶことが可能。基礎・臨床両面でのエキスパートを目標とする。

■ 取得手技

肺結核症・非結核性抗酸菌症・肺真菌症の診断に関わる血清学的検査および微生物学検査の内容を理解し、検査オーダーできるようにする。また、各疾患の標準的治療が行え、さらに副作用出現時に適切な対応ができるようにする。必要に応じて抗酸菌の型別解析法（VNTR法）の手技のほか、呼吸

不全管理に関しては特にNPPVの取り扱い手技を修得する。

■ 期間と募集人数

6ヶ月間、1～2名（同時期最大2名）

■ 診療科の指導体制

呼吸器内科：常勤医師7名
研修の指導にあたる医師数：7名

■ 診療科の実績（年間入院数／月外来数）

肺結核症：289件／268件
非結核性抗酸菌症：46件／164件
肺アスペルギルス症：29件／46件
間質性肺炎：29件／52件
慢性呼吸不全：54件／58件

■ 関連領域研修・共通領域研修

新患症例（入院・外来）カンファレンス（週1回）
難治症例カンファレンス（週1回）
多職種ハビリテーションカンファレンス（週1回）
診断治療基礎・最新知見講義を1ヶ月目に3～4回



東名古屋病院 呼吸器内科
中川拓

子どもの頃の夢

医者



指導医の声

結核病棟は全国トップクラスの規模。 NTMなど呼吸器感染症全般に力を入れています。

当院の前身が結核の療養所だったこともあり、結核病棟は60床あります。この地域だけでなく、全国的にみてもトップクラスの規模でしょう。名古屋市内だけでなく、市外から来る方も少なくありません。多剤耐性結核も含めて多くの患者さんを受け入れています。

現在、力を入れているのは「非結核性抗酸菌症（NTM）」の治療です。最近、罹患率が増えています。結核の患者さんを上回るようになりました。人から人への感染はないものの、難治性で、手術ができる病院自体少ないのですが、当院では対応可能です。診療だけでなく菌の遺伝子解析を実施するなど、臨床研究にも積極的に取り組んでいますので、今後も研究を続け、医学の進歩に少しでも貢献できたらと考えています。

また、NTMだけでなく、アスペルギルスなどの真菌の感染症のほか、呼吸器感染症全般に強いのも当院の特徴です。慢性呼吸不全も得意分野で、在宅酸素、在宅NPPV導入が必要な患者さんのリハビリテーションにも実績があります。リハビリによって、息苦しさの改善・軽減をすればQOLの向上につながります。急性期の病院からの転院を受け、在宅療養への橋渡しにも取り組んでいます。

今回鈴木先生が研修中ですが、こちらから正解を押しつけるのではなく、本人に考え、気づいてもらうスタンスを取っています。所属病院では常識になっていることも、他の病院に行くと、これはちゃんとエビデンスがある、こっちは病院の流儀であると感じてください。この違いに気づくとクリニカル・ケーススタディが生まれ、勉強や研究のきっかけになります。私自身、若い先生が来ると刺激を受けますし、他科の最新知識などは逆に教わることも多いです。一緒に勉強していく気持ちでやっています。

呼吸器内科は気管支鏡の手技もありますが、病歴をとり、画像を見て、鑑別診断を挙げていくような仕事を中心ですから、本当に内科らしい診療科だと思います。知識量はもちろん、コミュニケーション能力や患者さんをトータルに見ていくバランス感覚も大切です。急性期の患者さんに対応することも多いので、緊急時に慌てない対応力や体力も要求されます。

医療は、学問としてのサイエンスの部分と実学の部分の両面があり、その両方が欠かせません。それを踏まえながら、きちんと患者さんを診られる医師を育てていければと考えています。

平成29年度本部研修（医師対象）日程

| 研修名 | 平成29年度（予定） | |
|---------------------------------|---------------------|--------------------------|
| | 日時 | 場所 |
| 良質な医師を育てる研修 | | |
| シミュレーターを使ったCVC研修 | H29.6.30 | 九州医療センター |
| 神経・筋（神経難病）診療初級・入門研修 | H29.7.14～H29.7.15 | TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前 |
| 小児疾患に関する研修 | H29.7.20～H29.7.21 | 岡山医療センター |
| 内科救急 NHO-JMECC 指導者講習会① | H29.7.25 | 呉医療センター |
| センスとスキルを身につける！未来を拓く消化器内科セミナー | H29.8.4～H29.8.5 | 函館病院 |
| 腹腔鏡セミナー① | H29.9.1～H29.9.2 | ジョンソン & ジョンソン TSC(川崎) |
| 循環器疾患に関する研修 | H29.9.7～H29.9.8 | 岡山医療センター |
| 呼吸器疾患に関する研修 | H29.9.14～H29.9.15 | 岡山医療センター |
| 肺結核・非結核性抗酸菌症・真菌症-NHOのノウハウを伝える研修 | H29.9.22～H29.9.23 | 東名古屋病院 |
| 脳卒中関連疾患 診療能力パワーアップセミナー | H29.9.22～H29.9.23 | 仙台医療センター |
| 神経・筋（神経難病）診療中級研修 | H29.9.29～H29.9.30 | まつもと医療センター（中信松本病院） |
| 内科救急 NHO-JMECC 指導者講習会② | H29.10.31 | 本部研修センター |
| 膠原病・リウマチセミナー | H29.11.30～H29.12.1 | 九州医療センター |
| 腹腔鏡セミナー② | H29.12.1～H29.12.2 | コヴィディエン MIC(川崎) |
| 救急初療 診療能力パワーアップセミナー | H29.12.15～H29.12.16 | 北海道医療センター附属札幌看護学校 |
| 病院勤務医に求められる総合内科診療スキル | H30.1.25～H30.1.26 | 本部研修センター |
| 小児救急に関する研修 | H30.2.1～H30.2.2 | 四国こどもとおとなの医療センター |
| 内科救急 NHO-JMECC 指導者講習会③ | H30.2.6 | 京都府医療トレーニングセンター |
| チーム医療研修 | | |
| チームで行う小児救急・成育研修 | H29.10.19～H29.10.20 | 岡山医療センター |
| シミュレーション指導者教育研修 | H30.2.15～H30.2.17 | 本部研修センター |
| 重症心身障害児（者）医療に関する研修 | | |
| 重心医療の現場・実践編 | H29.11.16～H29.11.17 | 下志津病院 |
| 重心医療について知ってみよう | H29.10 or H29.12 | 西別府病院 |

各研修開催約2ヶ月前に募集を開始しますのでお申し込みは病院担当事務にご確認ください。